

新宮山彦ぐるーぷ第2207回

## 太古の辻下の倒木処理と千草岳探索

◇実施日 11月3日(木・祝) 晴

◇参加者 梶野照雄 1名

10月12日に太古の辻の靡看板を交換したが、その際に太古の辻から10分ほど下った所でちょっと不安定な倒木を見つけた。8月に通過したときには無かったと思うので以後に落下してきたと思われる。冬が来る前に処理したいと思いチェーンソーを持って出かけた。



前鬼林道ゲート



小仲坊に到着



紅葉真っ盛り

午前9時半に前鬼林道ゲートに到着、あわよくば鍵が開いているかと思ひ確かめたが、カギは掛ったままだった。

黙々と林道を歩いて10時過ぎに小仲坊に着く。階段の200段を越えたあたりから紅葉した木が増えて、日があたりととてもきれいだ。12時前に二ツ岩到着、腰を下ろして昼食を摂る。倒木の場所は判っているので、急ぐ事も無くゆっくり登った。



第一倒木現場

12時40分、最初の倒木に着き切除を始める。すぐ傍で枯れたまま立っていた木が、根の腐食が進んで倒れてきたと思われる、登山道の上に跨っている。先端から4ヶ所を切り一人で動かせる状態にし、谷に落として排除した。ここから5分ほど上にもう一つの倒木がある。こちらはちよつと複雑で、横たわった一本の倒木の上に、木に引っ掛かったもう一本の倒木がある。まず下の倒木を切除する。谷側に3mほど突き出している部分を切り落とすと、同時に3つの岩がズレ落ちた。登山道にある根元の部分を切りかけたが、完全に切ってしまうと当たっている大きな岩が動きかねないので、切るのをやめた。

少し上に登って上側の倒木を切る。引つ掛かった木より先は簡単に切り落とせたが、残った部分をどうするか、倒木の奥を確認した。奥は7〜8m位有り、太い木2本に止められている。2mほどの長さで切断して、引つ掛かっている小木を切り、下に落とした。切り落とした倒木を転がして動かそうとしたが、重くて動かさず。ちようど登ってきた登山者に協力を求めて二人がかりで何とか動かしたが、立ち木と階段に挟まれてしまい、排除できなかった。登山者にお礼を言い、残りの燃料を気にしながら短く切って倒木の処理を終えた。



第二倒木現場

下山途中に千草岳を探す。階段の200段目付近の尾根を少し下ってみたが、先が長そうなので再び登山道に戻り、右手を注意しながら下る。100段目を過ぎたあたりから大きな岩の下に白い標識が見え、近づいて見ると千草岳 新宮山彦ぐるーぷ と記されている。この岩峰を千草岳としているようだ。熊野修験の碑伝が一枚置いて

あった。標識すぐ傍のチムニー状になった岩の間を登って頂上のような場所に登った。そこに標識や碑伝は無く、5mほどの細長い岩が突き出しているだけで、南側は垂直の絶壁になっていた。



千草岳の標識

登ってみる

山頂らしき場所

登ってきた岩を回り込んで、落葉の積もった斜面を滑りながら降りて登山道に戻った。千草岳は登山道傍の岩峰、という記述があったように記憶しているので、この場所を千草岳としても違和感はないように思う。

小仲坊に戻り靴を脱いでしばらく休憩する。再び林道を歩いてゲートまで戻るが、いつも行きより帰りの方が長く感じるのは何故だろう。

久しぶりにチェンソーを担いで歩いたので肩が少々痛くなった。

(記：梶野)



登山道に降りる



小仲坊に帰着



下山

## 行動タイム

前鬼林道ゲート 09:30→10:06 小仲坊↓→11:52 ニツ岩↓12:42  
第一倒木現場 12:53→12:59 第二倒木現場 13:58→14:24 ニツ岩  
↓14:58 千草岳 15:12→16:07 小仲坊↓16:51 前鬼林道ゲート